

阪神・淡路大震災30年、 国際的な視点からの教訓と挑戦、 そして地域コミュニティ基盤の災害レジリエンスの向上

日程

2025年1月13日（月・祝日）13:10～17:30

場所

関西学院大学 大学院2号館教室5

※AI日韓通訳あり

阪神・淡路大震災は6,400名を超える死者と莫大な経済的損失をもたらした。あれから30年、日本と韓国はこの震災の教訓を風化させることなく、共に未来の災害に備えなければならない。シンポジウムでは、国内外の専門家が、大震災の教訓と課題を共有し、地域コミュニティの災害レジリエンスの向上、災害復興における地域社会の役割と課題について考える。

趣旨説明

羅 貞一 災害復興制度研究所主任研究員・准教授

基調講演

「阪神淡路大震災の教訓と課題、災害復興と人間の復興」 山中 茂樹 災害復興制度研究所顧問

主題発表

▶ 大規模災害発生後のレジリエンス確保のための地域社会の復旧需要

イ ジェウン(李在恩) 教授 忠北大学校国家危機管理研究所

▶ コミュニティの連帯による災害レジリエンス-韓国全羅南道求礼郡良井里の事例を中心に-

カン ヒスク(姜喜淑) 教授 朝鮮大学災難人文学研究事業団

▶ 原子力受容性における福島汚染水と地震の影響に関する分析

キム ソヨン(金瑞庸) 教授 亜洲大学校社会科学研究所

▶ 災害地域における実効的な回復力強化のためのボランティア活動活性化方策

イ チャンギル(李昌吉) 教授 仁川大学災難知識共有プラットフォーム研究事業団

[パネルディスカッション] モデレーター 岡田 憲夫 災害復興制度研究所顧問

山 泰幸 教授 災害復興制度研究所所長 大和 三重 教授 関西学院大学人間福祉学部

山崎 栄一 教授 関西大学社会安全学部

主題発表

▶ 韓国の阪神・淡路大震災に関する社会科学的研究の考察: 災害管理の教訓と政策改善策

チェ ジュンホ(崔俊浩) センター長 忠北大学校危機管理研究所

▶ 高レベル放射性廃棄物管理施設の受容性と地域開発: 地域要素を中心に

チョン セヒョク(全世嫻) 研究員・キム ミリ(金Miri) 研究員 亜洲大学校未来安全政策研究所

▶ 阪神・淡路大震災に対する韓国社会の認識と影響

イ ソクヒョン(李錫炫) HK教授 朝鮮大学災難人文学研究事業団

▶ 災害現場における被害者中心の均衡ある包容に関する研究

イ ヨンフ(李龍厚) 研究員 仁川大学災難知識共有プラットフォーム研究事業団

[パネルディスカッション] モデレーター 李 善恵 教授 関西学院大学人間福祉学部

山中 茂樹 災害復興制度研究所顧問 羅 貞一 災害復興制度研究所主任研究員・准教授

関西学院大学 災害復興制度研究所

【主催】 関西学院大学災害復興制度研究所 【共催】 亜洲大学未来安全政策研究所 仁川大学災難知識共有プラットフォーム研究事業団 忠北大学国家危機管理研究所 朝鮮大学災難人文学研究事業団

【後援】 韓国研究財団 駐神戸大韓民国総領事館 問い合わせ: 0798-54-6996 fukkou-entry@kwansei.ac.jp